

日本語と中国語における開始を表す表現に 関する研究の概観

——「～始める」、「～出す」、「～て来る」と
“～起来”、“～开”、“～上”を中心に——

単 麗

1. はじめに

日本語において、補助動詞¹「～始める」、「～出す」、「～て来る」は、いずれもアスペクト的な意味の開始を表す。例えば、次の例がある。

- (1) 雨が降り始めた²。
- (2) 雨が降り出した。
- (3) 雨が降って来た。

上の(1)、(2)、(3)は動詞「降る」の後ろに「～始める」、「～出す」、「～て来る」が付き、いずれも開始の意味を表し得る。

一方、中国語にも“笑起来”(笑い出した)、“哭开了”(泣き出した)、“议论上了(議論し始めた)”のように、“笑”、“哭”、“议论”という独立動詞の後ろに、方向を表す動詞“～起来”、“～开”、“～上”が付き、開始の意味を表し得る。丸尾(2014)は、“～起来”、“～开”、“～上”には開始を表す意味があるが、“～起来”、“～开”、“～上”の用法間の意味的差異について考察する必要があると指摘している。

本稿では、日本語と中国語における開始を表す表現に関する研究を概観し、日本語の「～始める」、「～出す」、「～て来る」と中国語の“～起来”、“～开”、“～上”をめぐり、従来の研究においては、何が焦点として検討されてきたかを明らかにする。

2. 日本語の開始を表す表現に関する先行研究

記述言語学において、「～始める」、「～出す」、「～て来る」はいずれもアスペクト³の形式の1つとして捕えられている（日本語記述文法研究会, 2007, pp. 41-43）。

前掲書によると、動きの時間的推移の局面を表すものには、「～始める」、「～出す」、「～て来る」等があるという。日本語記述文法研究会（2007）では、「佐藤は夕食を食べ始めた」、「雨が降り出した」という例を用いて、「～始める」、「～出す」は、動きが始まる段階を表すと分析している。

原沢伊都夫（2012）は、動きの段階を表すアスペクトとして、動作の開始を表す表現の「～始める」、「～出す」、「～て来る」を取り上げ、「本を読み始めた」、「雨が降り出した」、「だんだん寒くなって来た」という例を挙げている。

以上の通り、先行研究では、「～始める」、「～出す」、「～て来る」はいずれも開始の意味を表すとされている。以下では、「～始める」、「～出す」、「～て来る」についての研究を、それぞれ、2.1節、2.2節、2.3節でより詳細に概観する。

2. 1 開始を表す「～始める」に関する先行研究

開始を表す「～始める」の前項動詞の分類とその意味特徴について論じた研究としては、長嶋（1976）、森田（1978）、国広（1982）、寺村（1984）、姫野（1999）、田中（2003）等が挙げられるが、特に前項動詞の分類という視点から、「～始める」について分析を行ったのは、長嶋（1976）、寺村（1984）、田中（2003）である（表1）。

表1 「～始める」の前項動詞の分類に関する先行研究

～始める	前項動詞の分類
長嶋（1976）	継続動詞
森田（1978）	
国広（1982）	
寺村（1984）	自動詞、他動詞、意志動詞、非意志動詞
田中（2003）	自動詞、他動詞、継続動詞、瞬間動詞
日本語記述文法研究会（2007）	継続動詞

長嶋（1976）によると、「～始める」は瞬間動詞とは結びつかない。例えば、「死に始める」とは通常は言わないという。

寺村（1984）では、「～始める」はアスペクトの補助動詞として、「～することを始める」という意味であり、前項動詞は自動詞でも他動詞でも、また、意志動詞でも非意志動詞でもよいと述べている。

田中（2003）は、自動詞、他動詞、継続動詞、瞬間動詞のいずれも「～始める」の前項動詞として使えると指摘している。「～始める」には本来、動作主が意識的に行為を開始する意味があるが、前項動詞が瞬間動詞である場合は、複数のものが継続的に行為をするという意味を持つと、詳細に論じている。

日本語記述文法研究会（2007）では、「瞬間動詞には、動きが展開する時間の幅がないので、動きの始まりに焦点を当てることができない。そのため、基本的に、動きの開始の局面に焦点を当てた複合動詞『～始める』を作ることができない（日本語記述文法研究会 2007, p. 87）」と述べている。

上述した4つの研究では、開始を表す意味の「～始める」について、前項動詞の分類という角度から、どのような動詞が「～始める」に前接するかについて、分析を行っている。

一方、前項動詞については分類せず、直接「～始める」の意味特徴について分析を行った研究は森田（1978）と国広（1982）である。

森田（1978）によると、「～始める」には自然現象、無意志行為、意志的行為、いずれの例も見られるが、動作の開始意識、継続する作用が強く、終わりが予想できる一つの継続行為の開始に用いられるという。

一方、国広（1982）は、「～始める」は最初の段階とそれ以降の継続に焦点を当てていると指摘している。

以上の先行研究では「～始める」に前接する動詞の種類、あるいは、その意味特徴についての分析を行っている。「～始める」に前接する動詞に関しては、継続動詞（長嶋 1976, 田中 2003, 日本語記述文法研究会 2007）と瞬間動詞（田中 2003）、意志動詞（寺村 1984）と非意志動詞（寺村 1984）、自動詞（田中 2003, 寺村 1984）と他動詞（田中 2003, 寺村 1984）が「～始める」の前項動詞になり得るということを示した。一方、その意味特徴に関しては、①動作の開始意識が強いこと（森田 1978）、②継続する作用が強く、終わりが予想できる1つの継続行為の開始に用いられること（森田 1978）、③最初の段階とそれ以降の継続に焦点を当てていること（国広 1982）、という3つの意味特徴があることが分かった。しかし、「～始める」の前項動詞の分類とその意味特徴の関係については、未だ明らかにされていないことが分かった。

意味特徴に関しては、「～始める」には、①動作の開始意識が強いこと（森田 1978, 田中 2003）、②継続する作用が強く、終わりが予想できる一つの継続行為の開始に用いられること、③最初の段階とその以降の継続に焦点を当てていること（国広 1982）、という3つの意味特徴があることが分かった。しかし、「～始める」の前項動詞の分類とその意味特徴の関係については、未だ明らかにされていないことが分かった。

2. 2 開始を表す「～出す」に関する先行研究

開始を表す「～出す」に関する研究としては、森田（1978）、国広（1982）、寺村（1984）、

姫野（1999）等が挙げられる。

森田（1978）は、「考え出す、思い出す」のように、「～出す」は無の状態、現れていない状態のものがおのずと顕在化、動作・状態の変化として形を成すと指摘しており、「～出す」は「～始める」とは異なり、「『開始』よりは『新たな事態の成立』の意識が強く、人間行為に使われても意志性がなく、新事態の成立にしばしば用いられる」（森田，1978，p. 83）と述べている。

国広（1982）では、「～出す」は、継続的事態が発生する、最初の時点だけに焦点を当てているという主張を行っている。

寺村（1984）では、開始を表す「～出す」は、下の（4）、（5）で示す通り、自他、意志の有無の別なく使われ、動的事象の開始を言うので、通常は、状態動詞や瞬間動詞にはつかないとしているが、「暗くなり出した」、「彼は痩せ出した」における状態動詞「なる」、「痩せる」のように、状態動詞と接続する例も見られると述べている。また、「湖の魚が死に出した」における瞬間動詞「死ぬ」のように、複数の物が「次々に」という意味で使うことが可能で、「～出す」が瞬間動詞と接続する用法もあることを示している。

（4）雪が降り出した。（自動詞）

（5）彼から酒を飲み出した。（他動詞）

（寺村，1984，p.175）

姫野（1999）は、「～出す」は自動詞、他動詞ともに付くことができるとしている。同掲書によると、「～出す」は自動詞に付くと、主体の位置変化となり、主体の位置の変化は、一種の状態の変化であり、新たな事態の発生を表し得ると指摘している。つまり、姫野（1999）は「～出す」の新たな事態の発生という意味について、主体の位置変化という観点から説明しているということになる。

以上の先行研究では、「～出す」の前項動詞の種類と意味特徴についての分析が主となっている。前項動詞の分類に関しては、自動詞、他動詞、意志動詞、非意志動詞のいずれも、「～出す」の前項動詞になり得る（寺村 1984）ということが明らかになった。意味特徴に関しては、「新たな事態の発生」に対する森田（1978）及び姫野（1999）の分析、「継続的事態の最初の段階に焦点を当てている」に対する国広（1982）の分析、「自他、意志の有無の別なく使われる」に対する寺村（1984）の分析から見れば、「～出す」には、①新たな事態の発生、事態発生の最初の段階に注目すること、②動作主の意志とは関係がないこと、という2つの意味特徴があることが分かる。しかし、前項動詞の種類と意味特徴の関係については、未だ明らかにされていないと言えよう。

2. 3 開始を表す「～て来る」に関する先行研究

開始を表す「～て来る」の意味特徴に関する研究としては、益岡・田窪（1992）、有田

(2001)、清水 (2010) 等が挙げられる。

益岡・田窪 (1992) によると、「～て来る」の前項動詞が意志動詞である場合は、動作の継続を表すが、無意志動詞である場合は、出来事の継続、または状態の変化を表すという。益岡・田窪 (1992) の分析から、「～て来る」の意味特徴は前項動詞の意志性と関連があることが明らかになったと言える。しかし、益岡・田窪 (1992) では「経済が少しずつ落ちてきた」という例で「状態の変化」という意味について分析しているが、「状態の変化」は「開始」の意味とは見なせないことから、「～て来る」の開始という意味について正確には分析できていないと言える。

有田 (2001) は、「～て来る」の意味に関して、「移動」を表すとした上で、ほかにも「出現」、「反復性と経験」、「類似事態の集合」を表し得ると述べている。

清水 (2010) は、「～て来る」の意味に関して、「移動方向と継続アスペクト」を表すと説明した上で、「空が明るくなってきた」、「やがて彼女が好きになってきた」という例を用いて、「～て来る」の開始を表すアスペクトの用法について、論述している。

以上の先行研究では、「～て来る」の前項動詞の種類と具体的な意味についての分析がほとんどである。前項動詞の種類に関しては、意志動詞 (益岡・田窪 1992) と非意志動詞 (益岡・田窪 1992) があることを示している。具体的な意味に関しては、「～て来る」は前項動詞が意志か無意志により、動作継続と出来事の継続が区別される (益岡・田窪 1992) ことが示されること、ほかにも、出現・反復性と経験・類似事態の集合 (有田 2001)、移動方向・継続 (清水 2010) を表し得ることが分かった。しかし、「～て来る」の開始を表す意味に絞り、その意味・構文特徴について、考察を行ったものは限られている。「～て来る」の開始を表す点と開始を表す「～始める」、「～出す」の使い分けについての考察は行なわれていない。

2. 4 開始を表す「～始める」、「～出す」、「～て来る」の使い分けに関する研究

開始を表す「～始める」、「～出す」、「～て来る」の使い分けに関する研究は「～始める」と「～出す」の使い分けに集中している。代表的なものとしては寺村 (1984)、姫野 (1999)、田中 (2003) 等が挙げられる。

寺村 (1984) では、「～始める」と「出す」の使い分けについて、例 (6)、(7) を取り上げ、次のように述べている。

- (6) 赤ちゃんがわっと $\left\{ \begin{array}{l} \text{泣き出した。} \\ *^4 \text{泣き始めた。} \end{array} \right.$
- (7) 外はだんだん暗く $\left\{ \begin{array}{l} ?^5 \text{なり出した。} \\ \text{なり始めた。} \end{array} \right.$

「～始める」と、「～出す」は、開始を表す用法としては、ほとんど重なるが、一方が自然で、

他方が不自然な場合もわずかだが見いだされる。「～出す」は「～始める」より、突然、だしぬけに、といった感じが強い。(寺村, 1984, p.175)

寺村(1984)の取り上げた2組の「～出す」を使った用例から、「～始める」の表す意味とは対照的に、「～出す」は突然何かが起こったという意味を表すことが分かる。

新美他(1987)においても、「～出す」が意志動詞に付いた場合でも、その動作は無意識になされたという意味合いを帯びることがあり、そのため、下の(8)のような例を取り挙げ、「～てください」という相手に動作を依頼する形式が付かないという主張を行っている。

(8) 食べ始めてください。

(9) *食べだしてください。

(新美他, 1987, p.83)

新美他(1987)の研究から、「～出す」はその動作が無意識になされるという意味になることが分かる。

「～出す」と「～始める」の相違点に関しては、姫野(1999)によれば、感情・音の自然発生・自然現象・現実化の直前の様相・不測性・即興性が強調される場合は「～出す」の方が適しているが、意志的表現の場合は、「～始める」の方が適しているという。

この両者の相違について、姫野(2003)では、新美他(1987)の研究における「～出す」が示す「無意識な動作」を動作の自然発生と見なし、さらに、寺村(1984)の研究における「～出す」の突発性に注目し、分析を行っている。

「～出す」と「～始める」の使い分けの説明に関して、田中(2003)では、次の表2で示したように、前項動詞の分類と動作主の行為に主観性があるかという視点から分析を行っている。

表2 「～始める」と「～出す」の使い分け

「～始める」	「～出す」
動作主が意志的に行為を開始するという意味で、動作主が陳述に使う。	第三者が動作主の行為を客観的に陳述するために使うが、動作主の意志とは関わりがない。
行為や作用の開始そのものに視点がある場合に使う。	行為や作用の開始を示すが、その行為や作用が不測・突発的・新たな事態を示す場合に使う。
前項動詞として、自動詞、他動詞、継続動詞、瞬間動詞、全てに使える。	「～始める」と同じであるが、前項動詞が瞬間動詞である場合には、複数の物が継続的に行為をするという意味を持つ。

(田中, 2003, pp.63-79)

以上の先行研究から、開始を表す「～始める」と「～出す」の使い分けとしては、「～始める」は、自動詞、他動詞、継続動詞、瞬間動詞の、全て(田中2003)に後続するが、一方、「～

出す」は動作主の意志とは関わりなく使われることから、意志表現にはそぐわないということが分かった。しかし、使い分けに関しては、「～始める」と「～出す」の使い分けに限られ、それぞれの前項動詞の種類とその使い分けの関係については、明確に述べていない。また、「～始める」、「～出す」及び「～て来る」三者の使い分けに関しても、まだ明らかにされていない。

2. 5 本節のまとめ

本節では、日本語の開始を表す表現「～始める」、「～出す」、「～て来る」に関する先行研究を概観した。開始を表す「～始める」、「～出す」、「～て来る」に関する研究では、「～始める」、「～出す」、「～て来る」の前項動詞の分類とその意味特徴についての分析が主であった。使い分けに関しては、「～始める」と「～出す」の使い分けに関する先行研究が多いが、「～始める」、「～出す」、「～て来る」の三者の使い分けについては未だ明らかにされていない。

3. 中国語の開始を表す表現に関する先行研究

中国語の開始を表す表現としては、動詞に後続する趨向動詞“～起来”、“～开”、“～上”が挙げられる。张斌(2009)によれば、“起来”は開始の状態を、“开”は事物の行為、動作の展開、あるいは、新しい状況の始まりを、“上”は行為、動作の開始、継続を表し得るということである。同掲書では、それぞれ、次のような例が挙げられている。

- (10) 说着说着他就笑起来了。(話しているうちに、彼は笑い出した。)
 - (11) 消息很快就传开了。(そのニュースは瞬間に広がっていった。)
 - (12) 会议之前大家就议论上了。(会議は未だ始まっていないのに、皆は、既に議論を始めていた。)
- (张斌, 2009, pp.102-103)

上の(10)～(12)では、“～起来”、“～开”、“～上”のいずれも開始を表し得ることが分かる。3.1節では開始を表す“～起来”に関する先行研究を概観する。

3. 1 開始を表す“～起来”に関する先行研究

従来の研究では、開始を表す“～起来”に関して、趨向動詞である“～起来”の意味分析という視点から、分析が行なわれている。

吕叔湘(1979)は“起来”を独立動詞と趨向動詞に分け、その意味に注目し、詳細に分析を行っている。同掲書の分析において、「他6点就起来了(彼は6時に起きた)」という例を用いて、中国語の“起来”が日本語の「起きる」に相当する独立動詞であると分析を行った上で、趨向動詞として使われる“～起来”には5つの意味があると提示している。それぞれは「人、物事が動作によって、下から上へ向かうこと」、「動作の完成」、「動作の開始」、「挿入句として

の推測]、「ある状態が現れ始め、程度が強まりつつある」であるとしている。

また、動作の開始を表す意味として述べられたものとして次の例が挙げられている。

(13) ⁶欢呼起来。(歓声を上げ始めた。)

動作の開始を表す

(呂叔湘, 1979, p.442)

楊繼洲 (2006、2008)、王釗 (2013) は、中国語の“～起来”は動作の開始、継続、想起、推測、挿入語、比較等を表し得ると述べている。

(14) 笑起来了。(笑い出した。)

動作の開始、継続を表す

(15) 跑起来。(走り始めた。)

動作の開始、継続を表す

(16) 想起来了。(思い出した。)

想起を表す

(17) 看起来不错。(よさそうだね。)

推測を表す

(18) 算起来有一年时间了。(数えてみると、1年間が経った。)

挿入語

(19) 和她比起来, 我的汉语水平差远了。

比較を表す

(彼女に比べると、私の中国語のレベルはまだまだである /

彼女に比べると、私の中国語のレベルは、まだ下手である。)

(楊繼洲, 2006, p.27, p.150、楊繼洲, 2008, p.132、王釗, 2013, pp.18-24)

呂叔湘 (1979) は、“～起来”は動作の開始を表すか、あるいは、継続していくという意味を持つと述べているが、呂叔湘 (1979) 及び楊繼洲 (2006、2008) では“～起来”が、どのような場合に開始の意味を表わし、あるいは、継続の意味を表わすかについては、未だ、明確に述べていない。

劉月華・潘文娛・故韡 (2001) は、「動詞+起来」には開始を表す意味と、条件、評価を表す意味があると指摘している。例えば、“到汉武帝时, 这种策问考试, 才比较普遍实行起来。(漢武帝の時になって初めて、このような口頭試験が一般的に行われるようになった。)”における“起来”は開始を表すのに対し、“规定厂长有辞退权, 但实行起来并不容易。(工場長には解雇する権利があると規定されてはいるが、実行するのは容易ではない。)”における“起来”は評価を表す意味になるという主張を行っている。つまり、「動詞+起来」の意味を分析する場合には、後続する述語の意味や文脈を考える必要があるということになる。

上述した楊繼洲 (2006、2008) と劉月華・潘文娛・故韡 (2001) の研究からは、“～起来”の研究では、意味に焦点が当てられていることが分かる。

上述の先行研究は主に2つの視点から行われている。一つ目はアスペクトとして使う動詞の角度から、“～起来”がアスペクトの開始としての意味を持つと分析している。もう一つは“～起来”に対する意味分析に焦点を当てて、分析を行っている。“～起来”には、動作の開始 (呂叔湘 1979, 楊繼洲 2006、2008, 王釗 2013, 劉月華・潘文娛・故韡 2001)、下から上へ向かうこと・動作の完成・状態の出現 (呂叔湘 1979)、動作の継続 (呂叔湘 1979, 楊繼洲 2006、

2008, 王钊 2013)、想起(杨继洲 2006、2008, 王钊 2013)、推測と挿入語(吕叔湘 1979, 杨继洲 2006、2008, 王钊 2013)、比較条件・評価(刘月华・潘文娉・故韡 2001)を表す意味があることを示している。しかし、どのような動詞が、“～起来”の前項動詞になり得るのか、開始を表す“～起来”の意味・構文特徴については、まだ分析がなされていない。

3. 2 開始を表す“～开”に関する先行研究

中国語の動詞“开”は、使用頻度が高く多義語である(陈夏夏, 2013, p.182)。独立動詞として使われる“开”と、趨向動詞として使われる“开”の意味用法について、本小節では概観する。

従来、“开”の意味について多くの研究が行なわれてきているが、その代表的なものとしては、吕叔湘(1979)、孟琮(1999)、张斌(2009)、许艳敏(2012)等が挙げられる。吕叔湘(1979)の“开”の意味に関する詳細な記述は人口に膾炙している。同論文では“开”には以下の(20)～(33)までの意味があると述べている。

- | | |
|---|-------------------|
| (20) <u>开</u> 了门。
(ドアを開けた。) | 閉じているものを開くことを表す |
| (21) <u>开</u> 路。
(道を切り開く。) | 通すことを表す |
| (22) 扣子也 <u>开</u> 了。
(ボタンも外れた。) | 繋がっているものが離れることを表す |
| (23) <u>开</u> 荤。
(精進落としをする。) | 解除することを表す |
| (24) 我 <u>开</u> 拖拉机。
(トラクターを運転する。) | 動かすことを表す |
| (25) 部队已经 <u>开</u> 往前线。
(部隊は既に前線に向かっている。) | 移動することを表す |
| (26) 街口 <u>开</u> 着一家小饭馆。
(町角に小さなレストランができています /
角で小さなレストランが経営しています。) | 経営することを表す |
| (27) 工厂 <u>开</u> 了之后, 生产一直很忙。
(工場ができてから、生産はずっと忙しい。) | 始めることを表す |
| (28) 屋里正 <u>开</u> 着会。
(部屋の中では、ちょうど会議が行われている。) | 会議等を行うことを表す |
| (29) <u>开</u> 药方。
(処方箋を出す。) | 証明書類を用いることを表す |
| (30) 水 <u>开</u> 了。
(お湯が沸いた。) | 液体が沸騰することを表す |
| (31) 三七 <u>开</u> 。
(3分か7分。) | 比例で分配することを表す |

- (32) 开饭了。 料理等を並べて食べることを表す
(食事にしますよ。)
- (33) 开了五门基础课。 設立することを表す
(初級レベルの授業を5つ開講した。)

(吕叔湘, 1979, pp.327-329)

以上は、独立動詞としての“开”の使い方に関する先行研究であるが、“开”は、独立動詞のほかに、趨向動詞として使われる場合もある。

動詞に後続する趨向動詞“～开”に関する代表的な研究としては、吕叔湘(1979)、刘月华・潘文娛・故韡(2001)、许艳敏(2012)が挙げられる。

吕叔湘(1979)によると、中国語の動詞“～开”が、動詞に後続する趨向動詞として使われる場合は、次の(34)～(38)に示すような、「人や事物が別れること」、「離れること」、「広がること」、「はっきりすること」、「動作の開始」という5つの意味を持っているという。

- (34) 幕布已经拉开了。 人や、事物が別れることを表す
(幕が既に開いた。)
- (35) 请站开一点, 留出条路来。 離れることを表す
(もう少し離れて立って、通り道を開けてください。)
- (36) 这首动听的民歌很快就传开了。 広がることを表す
(その感動的な民謡は、瞬く間に広がってきた。)
- (37) 还是把事情传开了好。 はっきりすることを表す
(やはり、はっきり言った方が良い。)
- (38) 一见到亲人他就哭开了。 動作の開始を表す
(身内に会うなり、泣き出してしまった。)

(吕叔湘, 1979, p.329)

吕叔湘(1979)は、趨向動詞としての“～开”の5つの意味について分析を行い、その中でも、“～开”の動作の開始という意味に絞って例文を挙げながら論述しているが、“～开”の開始を表すフレーズ⁸の構造及びその意味特徴等については言及していない。

刘月华・潘文娛・故韡(2001)は“～开”の意味分析において、全ての趨向動詞について意味分類を行った上で、その意味分類に従い、以下の(39)～(41)を用いながら、“～开”の意味分析を行っている。

- (39) 他走开了。 趨向義：人間がある場所から移動し、離れていくことを表す
(彼は、立ち去った。)
- (40) 把这个面包掰开了。 結果義：分割、分裂、分離を表す
(このパンをちぎった。)

- (41) 听了这句话, 妹妹哭开了。 状態義: 静態から動態への変化を表す
(この話を聞いて、妹は泣き出した。)

(刘月华・潘文娛・故韡, 2001, pp.564-565)

许艳敏 (2012) も、動詞に後続する趨向動詞“～开”の意味に注目し、研究を行っている。同論文では、“～开”には、下の(42)、(43)のような、「空間変化」、「時間変化」の意味があると述べ、“说开(話し始めた)”、“骂开(罵り始めた)”を例として挙げ、“～开”は開始の意味を持つか、あるいは行為、動作が続いていることを表し得ると指摘している。

- (42) 搬开箱子。 空間変化を表す
(箱を運び出す。)

- (43) 骂开了。 時間変化を表す
(罵り始めた。)

(许艳敏, 2012, pp.107-108)

これらの先行研究では、いずれも趨向動詞“～开”の意味に対する分析を行なっているが、刘月华・潘文娛・故韡(2001)の分析では、まず、趨向動詞の意味を3種類に分け、さらに、その3種類に基づき、“～开”の具体的な意味分析を行っている。「形式と意味の結合という視点からの、趨向動詞の意味を『趨向義』、『結果義』及び『状態義』にまとめたことは、趨向動詞の意味に関する研究において、多くの研究者に認められている」(王宜广, 2013, p.71、筆者訳)⁹。

刘月华・潘文娛・故韡(2001)の示した趨向動詞“～开”の「趨向義」、「結果義」及び「状態義」の関係について分析を行ったのは、王国栓(2005)、王宜广・宫领强(2015)である。

王国栓(2005)は、空間上の位置変化を「趨向義」と見なし、空間上の位置変化の「趨向義」から、抽象の位置変化を起こしたものが「結果義」であり、空間上の位置変化により、抽象の時間の変化を起こしたものが「状態義」であると分析している。つまり、刘月华・潘文娛・故韡(2001)の主張した「結果義」及び「状態義」はともに、空間上の位置変化を表す「趨向義」から派生したものであるということである。

王宜广・宫领强(2015)は、閉扉から開扉への状態変化を“开”の基本義と見なした上で、

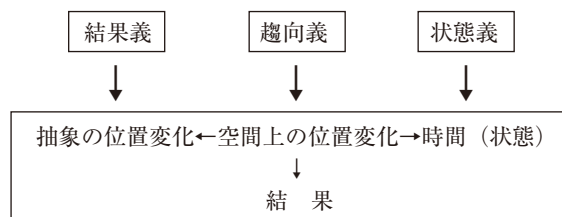


図1¹⁰ 王国栓(2005) 趨向動詞の意味関係

以下の(44)～(49)及び図2により趨向動詞“～开”の構造を分析している。

- (44) 我手颤颤地把信拆开, 瞠目望着那些既神秘又美的字形。 閉鎖から開放への変化を表す
(手を震わしながら、手紙を開封して、神秘的で美しい字形を目を見開いて見ている。)
- (45) 队伍立刻散开, 各人往四下里奔跑了。 集中から分散することを表す
(隊列は、たちまち散り散りになって、皆は逃げ出した。)
- (46) 下半场双方的比分被进一步拉开, 最后中国队输了分。 近づく状態から、離れて行くことを表す
(後半戦で双方の得点には、さらに大きな開きが出て、最後に中国チームが負けた。)
- (47) 只有特征才能把一事物和他事物区别开。 混ざっている状態から分離することを表す
(特徴だけが1つの事物と他の事物を区別することができる。)
- (48) 或是刚睡起来, 腿脚还没活动开。 引き締めた状態から伸ばすことを表す
(起きたばかりだからか、足を未だ動かしにくい。)
- (49) 她伸手夺过任保的一半瓜贪婪地吃开了。 動作の持続、展開を表す
(彼女は、任保の半分の西瓜を、手を伸ばし奪い取って、がつつ食べ始めた。)

(王宜广・宫领强, 2015, pp.41-44)

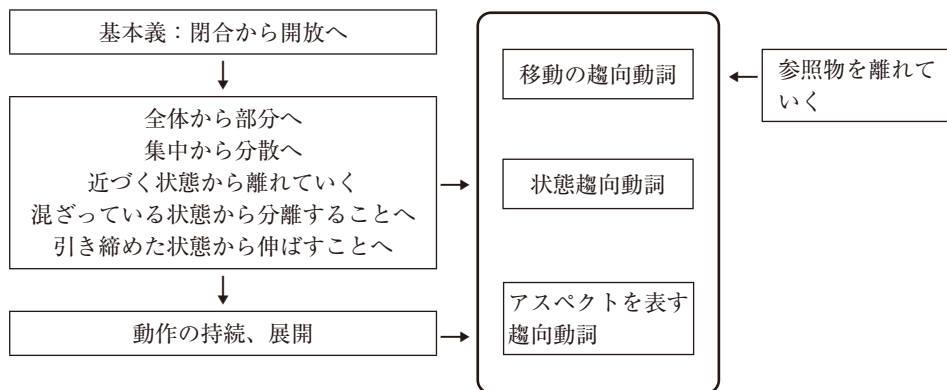


図2¹¹ 王宜广 (2015) の趨向動詞“～开”の構造分析

王宜广・宫领强 (2015) は、趨向動詞“～开”に関して、参照物との関係を視野に入れ分析を行っている。同論文では、動作の主体が参照物を離れていく場合には、趨向動詞“～开”は移動の趨向動詞であるが、一方、全体から部分への変化等がある場合には、状態変化の趨向動詞として捉えられること、動作の持続、展開を表す“～开”の場合には、アスペクトを表す趨向動詞であるとしている。

以上の先行研究では、“～开”の研究の開始時点においては、独立動詞の分析に焦点が当てられていたが、徐々に、王宜广・宫领强 (2015) が行った研究のように、趨向動詞としての意味の分析へと研究の焦点が移ってきている。“～开”の表す意味に関して、吕叔湘 (1979) を嚆

矢として、“～开”の14つの意味に関する詳細な記述があるが、開始の意味に触れたのは、呂叔湘(1979)、许艳敏(2012)及び王宜广・宫领强(2015)である。“しかし、具体的に、どのような動詞が“开”の前項動詞になり得るのか、開始を表す“开”の意味・構文特徴については未だ明らかにはされておらず、“～开”と“起来”、“上”との使い分けについても、未だ分析がなされていない。次の3.3節では、“上”に関する先行研究を概観する。

3.3 開始を表す“～上”に関する先行研究

中国語の動詞“上”には、名詞のほかに、独立動詞として使われる“上”と、趨向動詞として使われる“上”がある。独立動詞として使われる“上”の意味に関しては、以下の(50)～(59)までの意味が挙げられている。

- | | |
|--|-----------------------------------|
| (50) <u>上了</u> 车才想起来忘了带件毛衣。
(車に乗ってから、やっとセーターを忘れたことに気づいた。) | 低い場所から高い場所へ行くことを表す |
| (51) <u>见困难就上</u> , <u>见荣誉就让</u> 。
(困難には向かってゆき、荣誉は他人に譲る。) | 前に向かって進むことを表す |
| (52) <u>这个机器该上油</u> 了。
(この機械は油をささなければならない。) | 加えることを表す |
| (53) <u>上海队的九号上场</u> , 四号下。
(上海チームの9番が出場し、4番が退場する。) | 登場することを表す |
| (54) <u>枪上都上了</u> 刺刀。
(銃にはすべて刀剣を取り付けた。) | ある部品を物につけることを表す |
| (55) <u>上了药</u> 再走。
(薬を塗ってから行く。) | 塗る、付けることを表す |
| (56) 他的名字 <u>上了</u> 光荣榜了。
(彼の名前が表彰者の掲示板に載った。) | 掲載することを表す |
| (57) <u>闹钟已经上过</u> 了。
(目覚まし時計はすでにセットした。) | (スプリング・ぜんまいを) きつくねじることを表す |
| (58) <u>上了</u> 两堂课了。
(授業を2コマした。) | 決まった時間に、仕事をすることを表す
あるいは勉強等を始める |
| (59) <u>上了</u> 年纪。
(年を取った。) | ある数量、程度に達する |

(呂叔湘, 1979, pp. 471-473)

“動詞+趨向動詞”構造は、先秦時代の「動詞+“而”+“趨向動詞”」という構造から発展してきたものである(魏麗君, 1996, p. 43, 筆者訳¹²⁾。時代が下るに従って、“而”は省略されるようになり、“動詞+“趨向動詞”構造における“動詞”及び“趨向動詞”の関係は、より緊密になり、“趨向動詞”の使用頻度も高くなっている(胡晓慧, 2010)。以下では、趨向動詞である“上”の意味用法について概観する。

趨向動詞である“上”の意味に関する代表的な研究としては、史錫堯 (1993)、陈昌来 (1994)、张燕春 (1995)、刘月华・潘文娛・故韡 (2001)、潘海峰 (2005)、黄月华・白解红 (2010) 等が挙げられる。

史錫堯 (1993) は、趨向動詞である“上”の意味を、次の (60)～(64) のように、「添加」、「完成」、「達成」、「閉める」及び「開始」という5種類に分けている。

- | | |
|------------------------------|----------|
| (60) 貼上邮票。
(切手を貼る。) | 添加を表す |
| (61) 交上女朋友。
(彼女ができた。) | 完成を表す |
| (62) 考上大学。
(大学に受かった。) | 達成を表す |
| (63) 关上门。
(ドアを閉める。) | 閉めることを表す |
| (64) 雨又下上了。
(雨がまた、降り始めた。) | 開始を表す |

(史錫堯, 1993, pp.5-8)

陈昌来 (1994) は、“～上”の意味自体について詳細な分析を行っている。同論文では、“～上”を、次の例 (65)～(68) で示したような、人、物の趨向を表す“V上1”、動作、行為の結果を表す“V上2”、ある一定の数量を表す“V上3”、及び、動作、行為の開始及びその継続を表す“V上4”に分けている。

- | | |
|---|-------------------|
| (65) 他爬上了山。(V上1)
(彼は山に登った。) | 人、物の趨向を表す |
| (66) 我赶紧闭上眼睛, 关上了门。(V上2)
(私は急いで目を閉じ、ドアを閉めた。) | 動作、行為の結果を表す |
| (67) 一件马褂至少也可以穿上十来年。(V上3)
(中国服 ¹³ は少なくとも約10年は着られる。) | ある一定の数量を表す |
| (68) 他爱上了欧阳美怡。(V上4)
(彼は欧陽美怡を好きになってきた。) | 動作、行為の開始及びその継続を表す |

(陈昌来, 1994, pp.63-69)

张燕春 (1995) は、“上”の意味を基本義と拡張的意味に分け、基本義としては「低いところから高いところに行く」という意味であるとし、拡張的意味としては、次の (69)～(75) のように、「添加」、「出現」、「完成」、「収容」、「閉める」、「目的達成」、「開始」であると述べている。

- (69) 穿上衣服。 添加を表す
(服を着る。)
- (70) 写上名字。 出現を表す
(名前を書く。)
- (71) 垒上一道墙。 完成を表す
(壁を築く。)
- (72) 住上十二个人。 収容を表す
(12人が泊っている。)
- (73) 关上門。 閉めることを表す
(ドアを閉める。)
- (74) 住上新房子。 目的に達することを表す
(新しい家に住むことになる。)
- (75) 研究上数学了。 開始を表す
(数学を研究し始めた。)

(張燕春, 1995, pp.25-26)

刘月华・潘文娛・故韡 (2001) では、3.2節で挙げた趨向動詞の意味分類における「趨向義」、「結果義」、「状態義」に基づき、“～上”の意味用法について分析を行い、“～上”の本来の意味は、低いところから高いところへの移動を表すが、趨向動詞としての“～上”は、次に示すような、動作の結果1 (接触、付着、固定)、動作の結果2 (目標達成)、動作及び状態の開始を表し得るとしている。

- (76) 把门关上。 [結果義] 動作の結果1 : 接触を表す
(ドアを閉めた。)
- (77) 我用一块布把电视机蒙上了。 [結果義] 動作の結果1 : 付着、固定を表す
(私は布を使って、テレビを覆った。)
- (78) 他终于买上了喜欢的汽车。 [結果義] 動作の結果2 : 目標達成を表す
(彼はついに好きな車を買った。)
- (79) 小明, 我叫你睡觉, 你怎么又唱上了? [状態義] 動作、状態の開始を表す
(明ちゃん、早く寝てと言ったけど、どうしてまた歌いはじめたの。)

(刘月华・潘文娛・故韡, 2001, pp.135-140)

上述した刘月华・潘文娛・故韡 (2001) の分析からは、趨向動詞である“上”には、「結果義」と「状態義」があることが分かる。

黄月华・白解红 (2010) は、刘月华・潘文娛・故韡 (2001) の「結果義」と「状態義」の関係については、「状態義は結果義に比べ、より文法化した意義を持ち、動作や状態の時間上の展開であることを意味している」(黄月华・白解红, 2010, p.115) と述べている。趨向動詞である“上”の意味に関しては、趨向動詞である“上”は、空間義を表すほかに、非空間義も表す場合が多いとした上で、次の(80)～(84)のような、「空間移動義」、「動作行為義」、「一定の

数量]、「結果義」、「状態義」という5つの意味を示している。

- (80) 冲上去。 空間移動義
(突き進む。)
- (81) 拧上螺丝。 動作行為義
(ねじを締める。)
- (82) 说上两句。 一定の数量を表す
(二言三言話す。)
- (83) 盖上盖子。 結果義：接触を表す
(蓋をする。)
- (84) 我们早进巷干上活儿了。 状態義：動作の開始、継続を表す
(私たちはすでに路地に入って仕事をし始めた。)

(黄月华, 2010, pp.126-128)

潘海峰 (2005) は、下の (85)、(86) を用いて、“上” は動作、新事態の開始を表わすことから、“上” は文法化されていることが分かると述べている。

- (85) 领上孩子出去逃个活命吧! 不要在村里住了! 動作、新事態の開始を表す
(子供を連れていって、生き延びなさい。もうこの村には住むな! / 子供を連れ出して逃げて、生き延びろ。)
- (86) 拉着铺盖刚一出門, 他听见院里破口骂上了。 動作、新事態の開始を表す
(布団を持って家を出たところで、彼は(誰かが)庭で罵っているのを聞いた。)

(潘海峰, 2005, p. 32)

同掲書では、刘月华・潘文娛・故韡 (2001) の趨向動詞の関係に対する分類を用いて、“上” には「趨向義」から、「結果義」、「状態義」までの変化があることを示し (図3)、これら三者との関係 (図4) について、分析を行っている。

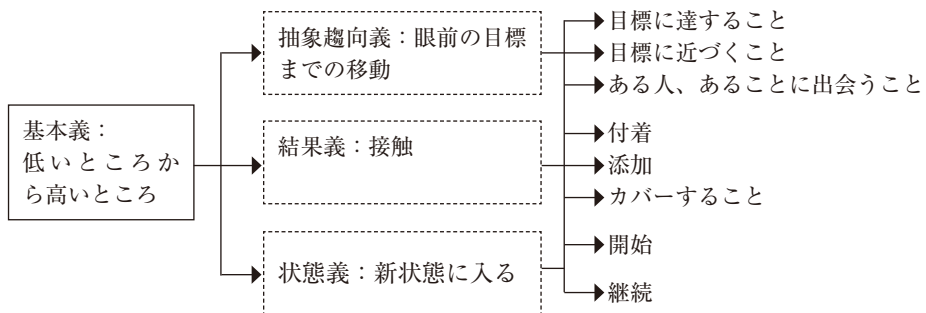


図3 “上” の各意味の関係図1 (潘海峰, 2005, p. 22から引用、筆者作)

潘海峰 (2005) の分析から、“上”には、低いところから高いところへの移動という具体的な位置変化である「趨向義」から、目標に近づいていくか、あるいはある人、あることに会う等といった「抽象的な位置変化」、及び新状態に入るといった、「状態義」までの意義があることが分かる。



図4 “上”の各意味の関係図2 (潘海峰, 2005, p.22から引用、筆者訳)

(87) 那个女老师嘴巴张了张, 没说话倒哭上了。

(あの女の先生は、口を開けて、何も言わずに泣いていた。)

(潘海峰, 2005, p.22)

潘海峰 (2005) は、上の (87) のような、「もともと、泣いていなかったが、“上”により、泣き始め、また、しばらく泣き続けている」という意味について分析を行った上で、開始の意味を表す“上”の前項動詞は動作の持続を表す「+動態持続」動詞、及び位置変化を伴わない「-位置変化」動詞であると指摘している。

同掲書の分析からは、開始を表す“上”の前項動詞の特徴は動作の持続を表すが、位置変化を表す意味は持たないことが分かる。

以上、“上”の前項動詞は、動作の持続を表す「+動態持続」動詞、及び位置変化を伴わない「-位置変化」動詞である (潘海峰 2005) ことを示している。意味に関しては、“上”の持つ10個の意味に対する呂叔湘 (1979) の詳細な論述を嚆矢として、“上”が持つ様々な意味が注目され始め、徐々に、陈昌来 (1994)、张燕春 (1995)、刘月华・潘文娛・故韡 (2001)、潘海峰 (2005)、黄月华・白解红 (2010) 等のように、趨向動詞として使われる場合の“上”の各意味同士の関係に関する研究に焦点が移ってきている。しかし、“上”が開始の意味を表す場合に、その意味・構文特徴については、未だ、十分には論述がなされていない。また、“～上”と“～起来”、“～开”との使い分けについても、未だ分析がなされていない。

以上の3.1節～3.3節では、開始を表す“～起来”、“～开”、“～上”に関する研究を概観したが、次の節では、開始を表す“～起来”、“～开”、“～上”の使い分けに関する先行研究を概観する。

3.4 開始を表す“～起来”、“～开”、“～上”の使い分けに関する先行研究

“～起来”、“～开”、“～上”は、いずれも開始の意味を表し、その使い分けについての研究

は、非常に限られている。本節では、開始を表す“～起来”、“～开”、“～上”の使い分けに関する研究を概観する。

開始を表す“～起来”、“～开”、“～上”の使い分けに関する研究においては、とりわけ、“～起来”と“～上”の使い分けが注目されている。その代表的な研究として、谢婷（2016）、赵盈（2012）が挙げられる。

谢婷（2016）では、『現代中国語辞典』（1986）にある1,614個の単音節動詞について、分析を行っている。同論文では、“上”と“起来”が開始の意味を表す場合には、ほぼ全ての単音節動詞が、“上”及び“起来”と共起し得ると指摘した上で、以下の2点についても指摘している。

- (i) “飞、走、考、开、抖、举”¹⁴は、“起来”とは共起し得るが、“上”とは共起し得ない。
- (ii) “上”と“起来”が開始の意味を表す場合には、“就”、“已经”、“又”と共起する文が多く、文末に“了”が付く場合も多い。

（谢婷，2016，p.26）

谢婷（2016）では、“上”及び“起来”と共起し得る前項動詞のまとめは行われているが、開始の意味を表す“上”と“起来”の使い分けについての考察は行われていない。

“上”と“起来”の使い分けに関しては、前述した赵盈（2012）によると、“～起来”は、“～上”より使用頻度が高いのみならず、“～起来”と組み合わせた形容詞、動詞の数も“～上”より多いため、“～起来”の文文化¹⁵の度合いは、“～上”より高いという。

同論文で、赵盈（2012）は、アスペクトの視点から、動作展開の内部の全過程を解析する郭锐（1993）の動詞の分類に従い、“～起来”と“～上”の使い分けについての分析を行っている。

郭锐（1993）では、「陳述性成分¹⁶としての動詞が指しているものには、時間の推移に伴う内部過程があり、起点（I）、継続段階（D）、終点（F）の3つの要素（図5）からなっている」（郭锐，1993，p.410、筆者訳）¹⁷と述べている。

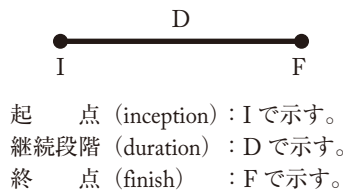


図5 動詞の内部過程及びその構成要素（郭锐，1993，p.410から引用、筆者訳）

同論文では、動詞の後ろに完了を表す“了”、過去を表す“过”、持続を表す“着”が共起し得るか、あるいは、動詞の前に、“正在”、“在”が共起できるかにより、動詞の表す事態発生過程の構造を解析し、次の表3のように、動詞を5つの種類（表3）に分類している。

表3 郭锐 (1993) による動詞の分類

NO	動詞の分類	中国語動詞の例
1	“无限构造动词” (起点・終点ともない動詞)	是, 等于, 以为, 作为 (～である、～と等しい、思う、なる)
2	“前限构造动词” (起点はあるが、終点はない動詞)	认识, 知道, 熟悉, 当心 (知る、分かる、熟知する、気を付ける)
3	“双限构造动词” (起点・終点ともにある動詞)	相信, 喜欢, 懂, 重视 (信じる、好む、分かる、重視する)
4	“后限构造动词” (起点はあるが、終点はない動詞)	产生, 提高, 消失, 增加 (産む、高める、消える、増える)
5	“点构造动词” (起点と終点が重なる動詞)	忘, 收到 (忘れる、受け取る)

(郭锐, 1993, p. 413から引用、筆者訳)

赵盈 (2012) は、“起来”の前項動詞は“双限构造动词 (起点・終点ともにある動詞)”、あるいは、“后限构造动词 (起点はあるが、終点はない動詞)”であると指摘している一方で、“上”の前項動詞に関しては、“双限构造动词”及び一部の“后限构造动词”であり、それ以外の動詞¹⁸は、開始を表す“上”の前項動詞にはならないと結論づけている。

3. 5 本節のまとめ

以上、論述したように、開始を表す“～起来”、“～开”及び“～上”の使い分けに関する先行研究は、主に“～起来”及び“～上”の使い分けに限られ、“～上”と“～开”、“～起来”、“～开”及び“～上”の三者の使い分けに関する研究は、管見の限り、未だ見当たらない。

4. おわりに

以上、日中開始を表す表現「～始める」、「～出す」、「～て来る」と“～起来”、“～开”、“～上”に関する先行研究を概観し、その成果と問題点を明らかにした。

まず、日本語の開始を表す表現「～始める」、「～出す」、「～て来る」に関する先行研究では、それぞれの前項動詞の分類とその意味特徴についての分析が主であることを示した。「～始める」の前項動詞に関しては、継続動詞 (長嶋 1976, 田中 2003, 日本語記述文法研究会 2007) と瞬間動詞 (田中 2003)、意志動詞 (寺村 1984) と非意志動詞 (寺村 1984)、自動詞 (田中 2003, 寺村 1984) と他動詞 (田中 2003, 寺村 1984) が「～始める」の前項動詞になり得るということを示した。「～出す」に関しては、自動詞、他動詞、意志動詞、非意志動詞のいずれも「～出す」の前項動詞になり得る (寺村 1984) ということが明らかになった。「～

て来る」に関しては、意志動詞でも、無意志動詞でもその前項動詞になり得る（益岡・田窪 1992）ことが明らかにされている。

意味特徴に関しては、「～始める」には、①動作の開始意識が強いこと（森田 1978）、②継続する作用が強く、終わりが予想できる1つの継続行為の開始に用いられること（森田 1978）、③最初の段階とそれ以降の継続に焦点を当てていること（国広 1982）、という3つの意味特徴があることが分かった。しかし、「～始める」の前項動詞の分類とその意味特徴の関係については、未だ明らかにされていない。一方、「～出す」には、①新たな事態の発生（森田 1978）、事態発生最初の段階に注目すること（国広 1982）、②動作主の意志とは関係がないこと（寺村 1984）、という2つの意味特徴があることが明らかになった。しかし、「～出す」の前項動詞の種類と意味特徴の関係については、まだ明らかにされていない。それに対して、「～て来る」は、前項動詞が意志か無意志により、動作継続と出来事の継続を区別し得る（益岡・田窪 1992）ことが示され、ほかにも、出現・反復性と経験・類似事態の集合（有田 2001）、移動方向と継続（清水 2010）を表し得るが、「～て来る」の開始を表す意味に絞り、その意味・構文特徴について、考察を行ったものは限られている。「～て来る」の開始を表す点と開始を表す「～始める」、「～出す」の使い分けについての考察は行なわれていない。

また、使い分けに関しては、「～始める」と「～出す」に関する先行研究が多いが、「～始める」、「～出す」、「～て来る」の三者の使い分けは未だ明らかにされていない。

次に、中国語の開始の意味を表す“～起来”、“～开”、“～上”の意味と用法に関しては、基本義から派生義まで、例を挙げながら、分析を行っている研究が多い。“～起来”には、動作の開始（吕叔湘 1979, 杨继洲 2006, 2008, 王钊 2013, 刘月华・潘文娛・故韡 2001）、下から上へ向かうこと・動作の完成・状態の出現（吕叔湘 1979）、動作の継続（吕叔湘 1979, 杨继洲 2006, 2008, 王钊 2013）、想起（杨继洲 2006, 2008, 王钊 2013）、推測と挿入語（吕叔湘 1979, 杨继洲 2006, 2008, 王钊 2013）、比較条件・評価（刘月华・潘文娛・故韡 2001）を表す意味があるが、一方、“～开”の表す意味に関しては、吕叔湘（1979）を嚆矢として、“～开”の14つの意味に関する詳細な記述（3.3節）がある。“上”の意味に関しては、吕叔湘（1979）が、“上”の持つ10個の意味について、詳細に論述を行っている。吕叔湘（1979）以降、“上”の持つ様々な意味が注目され始め、徐々に、趨向動詞として使われる場合の“上”の各意味同士間の関係（陈昌来 1994, 张燕春 1995, 刘月华・潘文娛・故韡 2001, 潘海峰 2005, 黄月华・白解红 2010）に関する研究に焦点が移ってきている。しかし、どのような動詞が、“～起来”、“～开”、“～上”の前項動詞になり得るのか、開始を表す“～起来”、“～开”、“～上”の意味・構文特徴については、未だ明らかにされていないことを示した。

最後に、開始を表す“～起来”、“～开”及び“～上”の使い分けに関する先行研究は、主に“～起来”及び“～上”の使い分けに関するものに限られることから、“～上”と“～开”、“～起来”、“～开”及び“～上”の三者の使い分けについては、未だ明らかにされていないことを示した。

開始を表す日本語の「～始める」、「～出す」、「～て来る」と中国語の“～起来”、“～开”、“～上”の、言語間における共通点と相違点及びその対応関係、すなわち、日中における開始を表す表現の対照研究は、今後の課題として、注目されるべきであろう。

(本稿は「2020年遼寧省教育庁科学研究経費項目：中华优秀传统文化对外宣传与日訳研究(J2020088)」の一部成果である。)

【注】

- 1 ある動詞がほかの動詞の後ろに付けて用いられ、これにある一定の文法的な意味を付け加える働きをする場合、それを補助動詞という。日本語の補助動詞には(1)前の動詞を「て」の形にするもの(例「食べている」)と(2)前の動詞を連用形にするもの(例「食べ始める」)の2通りある(日本語教育研究会, 1982, p.121)。
- 2 例(1)、(2)、(3)は作例である。
- 3 アスペクトとは動きの時間的な局面の取り上げ方を表す文法カテゴリーである(日本語記述文法研究会, 2007, pp.41-43)。
- 4 「*」は非文という意味を表す。
- 5 「?」は用法に揺れが存在するものである。
- 6 (13)～(19)までの例文の日本語訳は筆者によるものである。
- 7 (20)～(87)までの例文の日本語訳は筆者によるものである。
- 8 フレーズ: フレーズとは、単語と単語がある一定の関係に基づいて、組み合わせたり、まとまった意味を持って、1つの品詞に相当する働きをするもののことである。中国語の文法用語では“**短语**”あるいは、“**词组**”と呼ばれている(守屋宏則, 1995, pp.126-127)。
- 9 刘月华(1998)从形式和意义相结合的角度, 将动趋式的语义归纳为“趋向”、“结果”和“状态”, 得到学界较多的认可(王宜广, 2013, p.71)。
- 10 図1は王国栓(2005)の作成した図に基づき、筆者が翻訳したうえで、加筆したものである。
- 11 図2は王宜广(2013)の趨向動詞“～开”の構造分析と王宜广(2013)の論文の中にある「図2」に基づいて、筆者が作成し直したものである。
- 12 动词+趋向动词格式, 是从先秦时期的通行句法“动词+而+趋动”发展而来的(魏丽君, 1996, p.43)。
- 13 元は満州人が乗馬の時に着た。
- 14 飛ぶ、歩く、(試験を)受ける、開ける、震える、挙げる。
- 15 中国語文法では実詞が機能語(付属語、虚詞)に変わることをいう。
- 16 谓词性成分一般是陈述形式, 通常做谓语(述語成分となる文成分は、普通「**陈述性形式**」であり、述語である)(朱德熙, 2010, p.170)。
- 17 动词作为一个陈述性成分其所指有一个随时间展开的内部过程。这个内部过程由三个要素构成(陈述性成分としての動詞が指しているものには、時間の推移に伴う内部過程があり、起点(I)、継続段階(D)、終点(F)の3つの要素からなっている)(郭锐, 1993, pp.410-419)。
- 18 赵盈(2012)によると、それ以外の動詞は“**无限构造动词**(起点・終点ともない動詞)”、“**前限构造动词**(起点はあるが、終点はない動詞)”と“**点构造动词**(起点と終点が重なる動詞)”であるという。

【参考文献】

〈和文文献〉

- 国広哲弥（1982）『言葉の意味3』平凡社。
- 清水啓子（2010）「日本語「動詞＋て来る」構文の逆行態用法について」『熊本県立大学文学部紀要』第16巻，47-75。
- 田中衛子（2003）「類義複合動詞の用法一考」『愛知大学 言語と文化』No.10，63-80。
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版。
- 長嶋善朗（1976）「複合動詞の構造」『日本語講座』第4巻，大修館書店。
- 新美和昭・山浦洋一・宇津野登久子（1987）『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ④ 複合動詞』荒竹出版。
- 日本語記述文法研究会（編）（2007）『現代日本語文法3 第5部アスペクト』くろしお出版。
- 原沢伊都夫（2012）『日本人のための日本語文法入門』講談社。
- 姫野昌子（1999）『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房。
- 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法—改訂版』くろしお出版。
- 丸尾誠（2014）「中国語における『開始義』について—方向補語“起来”の用法を中心に」『言語文化論集第XXIX巻』第2号，358。
- 森田良行（1978）「日本語の複合動詞について」『日本語講座14』早稲田大学語学教育研究所，69-86。
- 守屋宏則（1995）『中国語文法の基礎』東方書店。

〈中文文献〉

- 常海星（2009）「“V上”结构的语义分析」『贵州教育学院学报』第4期，67-71。
- 陈昌来（1994）「论动后趋向动词的性质—兼谈趋向动词研究的方法」『烟台师范学院学报（社哲版）』第4期，63-69。
- 陈夏夏（2013）「论“开”的用法」『时代文学』3月下半月，182-184。
- 月华·潘文娛·故韡（2001）『实用现代汉语语法』商务印书馆。
- 郭 锐（1993）「汉语动词的过程结构」『中国语文』第6期，410-419。
- 贺 阳（2004）「动趋式“V起来”的语义分化及其句法表现」『语言研究』第3期，27-35。
- 侯精一（2001）『中国语补语例解（日文版）』（田中信一等译），商务印书馆。
- 胡晓慧（2010）『动词后“上”与“与”、“来”与“去”的语义演变及其不对称性』[硕士论文] 浙江：浙江大学。
- 黄伯荣·廖序东（1991）『现代汉语』高等教育出版社。
- 黄月华·白解红（2010）「趋向动词与空间移动事件的概念化」『语言研究』第3期，115-118。
- 梁银峰（2007）『汉语趋向动词的语法化』学林出版社。
- 刘勋宁（1998）『现代汉语研究』北京语言文化大学出版社。
- 刘月华（1998）『趋向补语通释』北京语言文化大学出版社。
- 吕叔湘（1979）『现代汉语八百词增订本』商务印书馆。
- 孟 琮（1999）『汉语动词用法词典』商务印书馆。
- 潘海峰（2005）『动后“上”的语法化过程和“V上”结构的句法予以问题研究』[硕士论文] 上海：上海师范大学。
- 史錫堯（1993）「动词后“上”、“下”的语义和语用」『汉语学习』第4期，5-8。
- 王国栓（2005）『趋向问题研究』华夏出版社。

- 王宜广 (2013) 「现代汉语动趋式语义研究述评」『汉语学习』2013 (6), 69-76.
- 王宜广・宫领强 (2015) 「动趋式V开的语义扩展路径—基于概念结构理论」『汉语学习』第1期, 38-46.
- 王 钊 (2013) 『趋向补语起来、上去、出来引申义对比研究』[硕士论文] 辽宁: 辽宁师范大学.
- 魏丽君 (1996) 「也谈动趋式的产生」『古汉语研究』第4期, 43-44.
- 谢 婷 (2016) 『动趋式“V+上”和“V+起来”中单音节动词的分类研究』[硕士论文] 重庆: 重庆师范大学.
- 许艳敏 (2012) 「“V开”构式的语法化」『语文知识』第3期, 106-113.
- 杨寄洲 (2006) 『中级汉语教程 (第二册上)』北京语言大学出版社.
- 杨寄洲 (2008) 『汉语教程 (第三册上)』北京语言大学出版社.
- 杨寄洲 (2008) 『汉语教程 (第二册下)』北京语言大学出版社.
- 张 斌 (2009) 『现代汉语描写语法』商务印书馆.
- 张燕春 (1995) 「“V+上/下”中“上/下”的意义和V的类」『赣南师范学院学报』4期, 25-26.
- 赵 盈 (2012) 『表起始义的“起来”和“上”的对比』[硕士论文] 吉林: 吉林大学.
- 朱德熙 (2010) 『语法分析讲稿』商务印书馆.

(ぜん れい: 遼寧省大連工業大学外国語学院准教授、城西国際大学大学院人文科学研究科
博士課程比較文化専攻在籍)

Abstracts

A Review of Research into Expressions Used to Signify Beginnings in Japanese and Chinese: Focus on *-hajimeru*, *-dasu*, *-tekuru* and *-qilai*, *-kai*, *-shang*

Shan Li

This paper summarizes previous research into expressions used to signify beginnings in Japanese and Chinese and tries to clarify the focus of this research.

Firstly, research into the expressions *-hajimeru*, *-dasu*, *-tekuru* indicating beginnings in Japanese is summarized. As for the differences in their use, many studies have focused on the difference between *-hajimeru*, *-dasu*, but the differences in the use of the three is not yet clear. There follows a summary of the research into *-qilai*, *-kai*, *-shang*, which are expressions relating to beginnings in Chinese. As yet, there are few studies focusing on the meaning and usage of *-qilai*, *-kai*, *-shang*, and these studies only focus on the initial meaning. As the differences and corresponding relationships between the expression of beginning in Japanese and Chinese are not clear, there needs to be more research conducted into the similarities, differences, and corresponding relations between Japanese and Chinese languages.